

研修医・医学生のための救急・集中治療レクチャー

ERでの出り開

和歌山県立医科大学高度救命救急センター





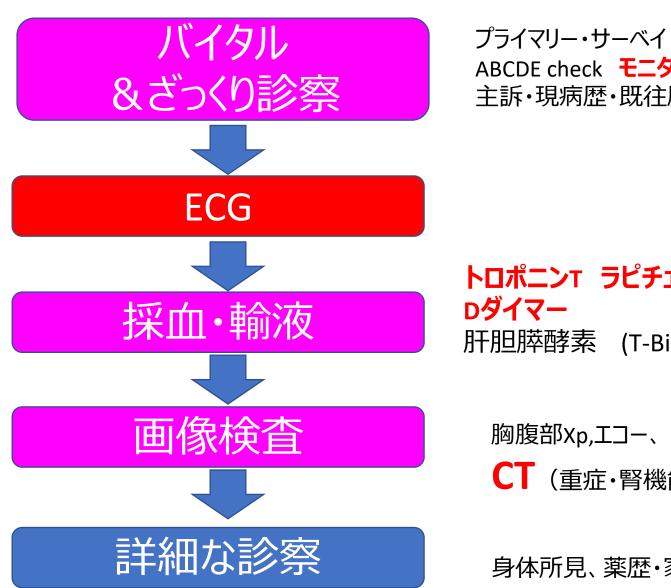
胸痛のポイント

- ✓ ER最大のテーマの一つ。
- ✓ 頭痛や腹痛より鑑別が少ない。

- ✓ まずバイタル。
- ✓ ACSを見逃さない。
- ✓ 心電図を10分以内に。

✓ 5 Killer chest pain を逃さない

胸痛の初期診療の流れ



ABCDE check モニター 主訴・現病歴・既往歴

トロポニンT ラピチェック

肝胆膵酵素 (T-Bil, ALP,g-GTP, Amy)

CT (重症・腎機能OKなら造影CT)

身体所見、薬歴・家族歴

胸痛の問診 (OPQRST)

0: onset

P: palliative, provocative factor

Q: quality

R: region, radiation

related symptoms

S: severity

T: time course

発症様式

增悪•寬解因子

性質

部位•放散痛

随伴症状

強さ・程度

時間経過

5 Killer chest pain

ACS

- •大動脈解離
- 肺塞栓
- •緊張性気胸
- •食道破裂
- •急性胆囊炎
- •急性膵炎

ACSの頻度は、大動脈解離の約10倍

ACSを疑う胸痛

- 放散痛 LR 7.1
- ·冷や汗 LR 4.6
- •圧迫感
- •悪心•嘔吐
- ・過去の狭心症と同じ
- 労作時に発症
- 手のひらサイズ、握りこぶしサイズの胸痛

痛みがない心筋梗塞 22-35%

ACSを疑いにくい胸痛

- ・胸壁の一部に限局
- •指先で指す場合
- 体位性 LR 0.13
- I平 I及 I LR 0.22
- 刺すような痛み LR 0.41

吸気に増悪する胸痛

- •胸膜性胸痛
- •胸膜炎
- •肺炎
- •肺梗塞

- 気胸
- •心外膜炎
- •SLEなど

問診「深呼吸で変わりますか?」

AMIの症状のピットフォール

- 6-52%が非典型例
- 息切れ、倦怠感、放散痛、悪心嘔吐

- 高齢者、女性、糖尿病は要注意
- •85歳以上で最も多いのは**息切れ**

検査

- ECG
- ルンエコー
- トロポニンT ラピチェック

--->**ACS**

- Dダイマー
- •胸部Xp
- 胸部CT

--->大動脈解離、肺塞栓

AMIのECGのピットフォール

- •最初のECGの感度は13-69%しかない
- •経時変化を追え!
- ミラーイメージがあれば、AMI

心筋酵素のピットフォール

- •発症1時間以内 感度10-45%
- •発症2-3時間 感度96%
- •発症8時間以上感度98%

Ann Emerg Med 2001 37:478-494 Acad Emerg Med 2001 8: 696-702

超早期は診断できない

疑わしい患者は2時間後にフォロー

65歳 男性 排便中の胸痛

• ECG: 正常 **ST上昇** (I aVLでSTがビミョーに上昇??)

血液検査(発症1時間後)

トロポニンT、ラピチェック陰性

• WBC	8800	2時間後	11300
• AST	28	フォロー	75
• ALT	20		27
• LD	318		354
• CK	161		853
• CKMB	5		96
・トロポニン	0.04		5.94

急性心筋梗塞(#9,10 対角枝)

AMIを疑ったらどうする?

- ECGは過去のECGと必ず比較。
- ないい場合は、前医に問い合わせる。
- •経時的変化を見る。

- •診断と治療を兼ねて、
- •ニトロペン舌下やミオコールスプレー舌下で症状と心電図変化を診る。

ST上昇する疾患

- 早期再分極
- ・肥大型心筋症
- ・異型狭心症
- ·心外膜炎
- ・急性心筋梗塞
- · 陳旧性心筋梗塞
- ・心筋挫傷
- · 急性大動脈解離
- ・心室瘤

- LVH with strain Oreciprocal change
- ・たこつぼ(カテコラミン) 心筋症
- Brugada症候群(V₁,V₂)
- ・くも膜下出血
- ・高K血症
- ・肺塞栓
- Cardioversion後
- ・完全左脚ブロック

など

ST上昇 = 心筋梗塞だけではない。

AMIはERで治療開始

患者から離れるな!

(モニター装着 & DC用意)

- 疼痛コントロール
- バイタルサインの安定化

MONA

- (モルヒネ・酸素・ニトロ・アスピリン)
- ニトロペン (0.3mg) 1 T舌下
- ミオコールスプレー 1 噴射(0.3mg) 3 回まで それでも疼痛消失しない場合
- 塩酸モルヒネ→現在はフェンタニル
- ・・アスピリンは乖離を否定してから。

大動脈解離

- •突然発症!
- 発症時激痛一くも膜下出血も激痛!
- ・移動する背部痛
- •上肢の血圧左右差
- ·上縦隔拡大(胸部Xp)

•低血圧多い

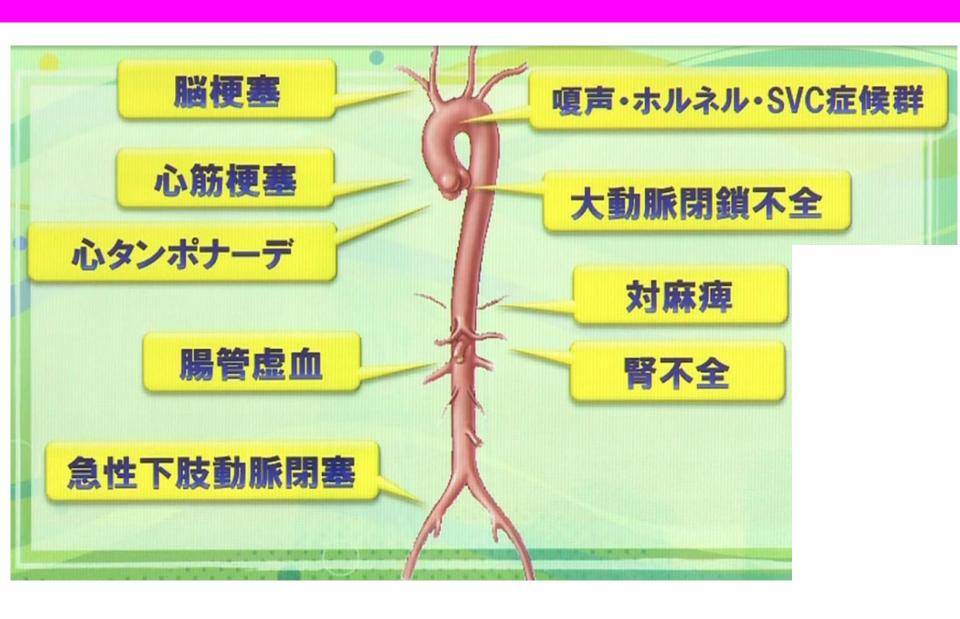
(心タンポ、AR、左室機能低下、大動脈破裂)

2つ以上陽性:83%

3つ陽性:100%

LR66!

大動脈解離のさまざまな症状



大動脈解離を疑うヒント

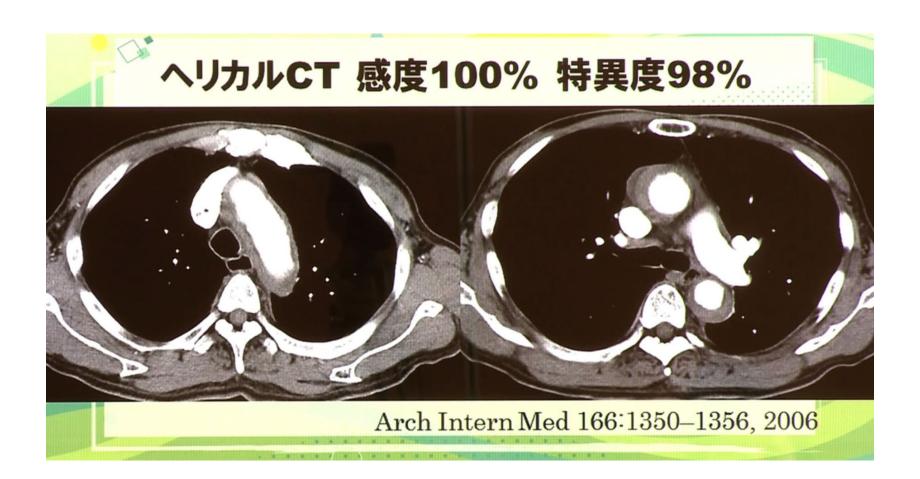
- •胸痛
- •背部痛



- •神経局在所見
- •心雑音
- •腎不全
- •下肢虚血

検査

D-dimerとCT



肺塞栓症 (PTE)

- •突然発症!
- •呼吸困難(72%)
- •胸痛(43%)
- •冷汗 (25%)
- •頻呼吸、頻脈 (22%)
- •失神 (22%)

肺塞栓症 (PTE)

- •高齢(60歳以上)
- •肥満
- •女性
- •長期臥床
- •悪性腫瘍
- •ステロイド

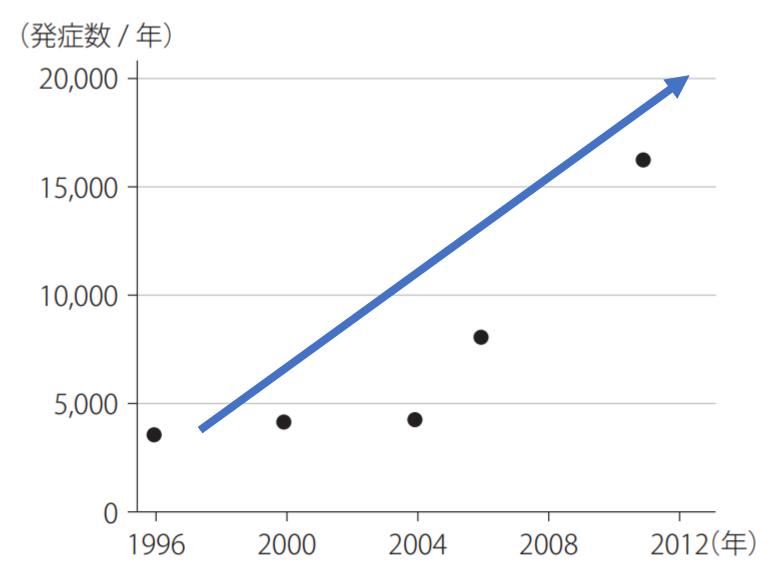


図 1 わが国の PTE 発症数の推移

(Nakamura M, et al. 2015⁴⁰⁾より)

肺塞栓症 (PTE)

胸部XP

特異的な所見はない。浸潤影なし。

心拡大(右室系) と肺動脈中枢部の拡張 (70%)

ABG

PaO2↓、PaCO2↓ 呼吸性アルカローシス

心エコー

右室負荷所見、右室·IVC拡大

短軸像:D-shape

D-Dimer

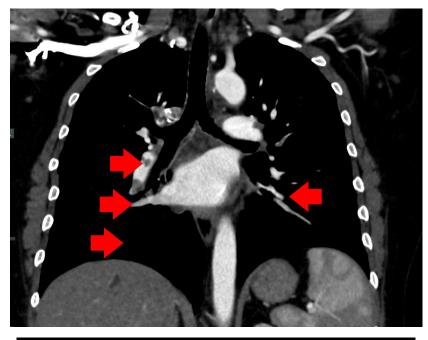
上昇

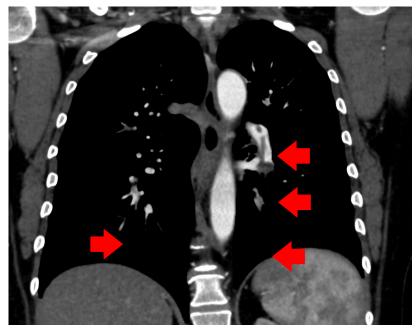
感度高いが特異度低い

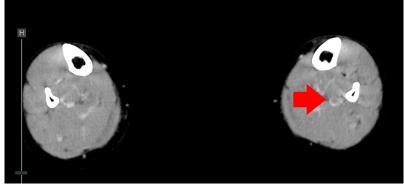
肺血栓塞栓症および深部静脈血栓症の診断,治療,予防に関するガイドライン 2017

肺塞栓症 (PTE)

胸部~下肢造影CT







胸痛のまとめ

まずバイタル。

5 Killer chest pain を逃さない。

ACSを見逃さない。心電図を10分以内に。 ACSは経時的変化、ERで治療を。

大動脈解離は、突然発症、激痛、血圧左右差、上縦隔拡大。 PTEは、肺野きれいで低酸素、呼吸困難、頻呼吸、頻脈

⇒心エコー、d-dimer、造影CT